

## 心房細動に対する外科治療法

心臓血管外科学臨床教授 永吉靖弘

心房細動とは、日常診察では一般的な不整脈である。有病率は男女とも加齢とともに増加し、2005年の時点では我が国で71.6万人が、2050年には約103万人（総人口の1.1%）を占めると予測されている。

### 心房細動の怖いところは？

心房細動では、心房が細かくプルプル震えた状態となると、左心耳という部分で血液が淀み、血液が固まって血栓を生じることがある。何かの拍子に剥がれ落ちて、体の血管を詰まらせる塞栓症を引き起こします。血栓が脳の血管を詰まらせた場合は、脳梗塞を引き起こします。脳梗塞の約20～30%が、心房細動を原因とされています。

### 心房細動の治療とは？

血液をサラサラにする薬剤を内服する抗凝固療法を行います。

⇒しかし、出血性副作用による内出血や貧血を来たした場合、毎日の服薬そのものが困難な場合、出血性疾患（脳出血、上下消化管出血、がん など）の場合には内服が困難になってきます。

そこで、内服離脱可能な手術方法が考案されました。

### WOLF-OHTSUKA法（ウルフオオツカ法）心房細動に対する外科手術法です。

胸部の数か所の小さな穴から胸腔鏡（内視鏡）を使用して、心房細動を治療するアブレーション（電気で焼く）と血栓症（脳梗塞など）を予防する左心耳切除を同時に行える手術です。

これは、全身麻酔で手術時間は1時間～1時間半程度で行われ、入院期間は約1週間となっております。

・アブレーションとは、心臓外側から非常に作業効率の良いクランプという道具を使用し、異常な電気伝導をまとめて取り囲むように焼く作業を短時間（約10秒）で確実に完了できる。

・左心耳切除とは、内視鏡手術で使われているステープラという器械にて左心耳を瞬時に根部から離断する。

（問い合わせ先）

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

regional@kanazawa-med.ac.jp

Kanazawa Medical University Hospital



No.38 2021-9 発行

WOLF-OHTSUKA 法（ウルフオオツカ法）はどのような患者さんに最も効果的か？

心房細動がありアブレーションで治る見込みのある患者さんは、一度の手術で心房細動が治る見込みが比較的高いとされています。アブレーションで治る見込みがないが、出血・貧血などの副作用や高齢・認知症・腎機能障害などの医学的理由（あるいは社会的・経済的理由）により抗凝固薬の継続が困難な患者さんや生涯の抗凝固療法を希望されない患者さんは抗凝固薬内服の必要がかなり低くなります。

近年、左心耳という部分に注目が集まるようになってきました。心房細動では、左心耳は無用の長物と言うよりもありがた迷惑というか、**神様の「いやげもの」**といっても良いかもしれません。その左心耳を切除することで血栓ができにくくなり、脳梗塞を起こすリスクが低くなるといわれ、心房細動の方には、この手術法は朗報となると考えております。心房細動でお悩みの方がいらっしゃいましたら、患者様に沿った治療法をご提案できると考えておりますので、ご相談ください。

（問い合わせ先）

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

[regional@kanazawa-med.ac.jp](mailto:regional@kanazawa-med.ac.jp)

Kanazawa Medical University Hospital